

氏名 大澤宏之

プロフィール (自己PR)

私は、大学卒業後、国際電信電話株式会社(現KDDI株式会社)に入社し、通信事業に従事しました。その後13年間にわたってケーブルテレビの統括運営会社で勤務しました。通信事業での経験を通して、IT活用のノウハウを身につけました。新規事業として立ち上げたケーブルテレビ事業では、本部が未だ方針を地域のケーブルテレビ会社に展開し、地域ごとの特性を活かしてカスタマイズしていくという事業経験を有しています。デイリーニュースをグループ全74局で展開するしくみを考え、実現したのは私の仕事での実績のひとつです。教育の世界を鑑みると、前者の経験は学校教育のなかで「ICT環境の活用を進めることにつながり」、後者の経験は教育委員会と各学校との関係の強化に結びつけることができるように思います。

早期に勉学、スポーツ、芸術などさまざまな面での能力への気づきを与え、「自立感と自己肯定感」を持つ子どもを育成するためには、小学校低学年からの英語教育、小学校高学年からの部活への参加、各科目の学習の意義を共有しながらの専門科目教育などが有用であると考えます。そのためには小中連携の強化が重要であり、小中一貫教育も有用な選択肢であると考えています。このような考えに至った背景には、私自身も家族が一貫教育で経験した実体験による裏打ちがあります。

最後に、私は中野を誇り、こよなく愛しております。中野区検定においては歴代2位の94点を収め、中野区初のリポートMAPの作成にも携わりました。地域団体の交流会である「つながる中野」の会長として、足掛け8年85回にわたり10代～80代の幅広い年齢層の会合を毎月開催し、交流の懸け橋となってきました。これからの少子高齢化のなか中野を愛し、自治中野で子育てをする。そういう子どもたちを育む教育の実践については誰にも負けない自信があります。

氏名 大澤 宏之

教育委員になった際に取り組む課題（簡条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1. (課題) 自らの力で道を切り拓く進取の精神を育む教育 について

その解決方法（簡条書きで簡潔に）

- ・自らの可能性に気づき、自己肯定感を芽生えさせる環境、仕組み作り
- ・勉学のみならず、スポーツ、芸術などの実践の場や目標を多様に提示
- ・小中連携教育の強化（小学校低学年からの英語教育実施、小学校高学年からの部活への参加）
- ・小中一貫校の設立による教育方法の多様化（小学校での英語教育の拡充、専門科目教育の実施、部活への参加）

2. (課題) GIGAスクール構想の推進によるびりびりに最適な教育の実施について

その解決方法（簡条書きで簡潔に）

- ・学校内のネットワーク/LAN環境、1人1端末の環境の整備
- ・ICTの活用により教員がびりびりの理解度を把握しながら授業を実施
- ・ICTの活用によるびりびりの理解度にあつた学習の実現
- ・ICTの活用により教員の負荷軽減、勤務時間の適正化
- ・ICT支援員、授業準備アシスタントなどへの地域の民力活用

3. (課題) 多様性を理解好土壤や地域を愛する気持ちを育む教育について

その解決方法（簡条書きで簡潔に）

- ・人権教育やジェンダー教育を通じて、自らを尊重し、誰かを平等に尊重する考え方を育むこと
- ・人間の多様性やマイノリティの存在を正しく伝えること
- ・世界の人々との融和のため、その国の歴史や文化などを正しく伝えること
- ・中野区の歴史・文化のすばらしさを正しく伝えること
- ・地域の皆さまとの交流を深めること

氏名 大澤宏之

教育委員に応募する理由 (横書きで記入してください)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 私 | は | 教 | 育 | 委 | 員 | と | し | て | 、 | 中 | 野 | 区 | 教 | | | |
| 育 | 大 | 綱 | の | 基 | 本 | 理 | 念 | の | も | と | 、 | 自 | ら | の | | |
| 力 | で | 道 | を | 切 | り | 拓 | く | 進 | 取 | の | 気 | 概 | を | 持 | | |
| っ | た | 人 | 、 | 多 | 様 | な | 人 | 間 | 性 | を | 認 | め | 合 | い | | |
| 思 | い | や | り | に | あ | ふ | れ | る | 人 | 、 | 公 | 徳 | 心 | に | | |
| 富 | み | 社 | 会 | に | 役 | 立 | つ | 人 | 、 | 家 | 族 | わ | が | ま | | |
| ち | そ | し | て | 自 | ら | の | 祖 | 国 | を | 愛 | す | る | 人 | 、 | | |
| を | 育 | ん | で | ま | い | り | た | い | と | 考 | え | て | い | ま | | |
| す | 。 | こ | の | よ | う | な | 教 | 育 | を | 、 | 自 | ら | 愛 | し | | |
| て | 止 | ま | な | い | こ | の | 中 | 野 | で | 実 | 現 | あ | る | 。 | | |
| こ | れ | こ | そ | が | 私 | の | 願 | い | で | あ | り | 、 | 教 | 育 | 。 | |
| 委 | 員 | に | 応 | 募 | す | る | 理 | 由 | で | も | あ | り | ま | す | 。 | |
| 進 | 展 | す | る | 少 | 子 | 高 | 齢 | 化 | の | な | か | 、 | 子 | | | |
| ど | も | た | ち | ひ | と | り | ひ | と | り | が | 持 | つ | 能 | 力 | | |
| を | 最 | 大 | 限 | に | 引 | き | 出 | す | こ | と | 。 | そ | し | て | | |
| 大 | 人 | に | な | っ | て | も | こ | の | 街 | に | 住 | み | 続 | け | | |
| 自 | 分 | の | 子 | ど | も | に | も | こ | の | 街 | で | 教 | 育 | を | | |
| 受 | け | さ | せ | た | い | と | の | 想 | い | を | 抱 | く | 。 | こ | | |
| の | よ | う | な | 教 | 育 | 環 | 境 | の | 整 | 備 | が | 急 | 務 | で | | |
| あ | り | 、 | 中 | 野 | 区 | の | 末 | 永 | い | 発 | 展 | に | つ | な | | |
| が | 子 | と | 信 | じ | て | お | り | ま | す | 。 | | | | | | |
| コ | ロ | ナ | 禍 | で | 混 | 乱 | が | 生 | じ | て | い | る | 今 | | | |
| こ | そ | 、 | こ | れ | ま | で | の | 経 | 験 | を | 活 | か | し | 、 | | |
| G | / | G | A | ス | ク | ー | ル | 構 | 想 | を | 推 | 進 | 、 | 先 | | |
| 生 | の | 負 | 担 | を | 減 | ら | し | つ | つ | 、 | 対 | 面 | と | I | | |
| T | の | 良 | さ | を | 組 | み | 合 | わ | せ | た | 教 | 育 | を | 実 | | |
| 現 | し | た | い | と | 考 | え | ま | す | 。 | | | | | | | |

※1枚以内で記入してください